

2022 年 1 月 27 日

2021 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究

女子高校生を対象とした月経不順に関する知識の提供と適切な受診行動を促すための

教材開発

Development and Evaluation of Teaching Materials for High-school Girls
about Irregular Menstruation to Improve Timely Health-care Utilization

20MW008

合田摩弥

要旨

【目的】女子高校生の月経不順に対する知識は浅く、産婦人科受診に抵抗がある生徒が多い。月経不順に関する知識の提供と適切な受診行動を促すための動画教材の開発し、専門家及び大学生からの動画教材の評価を得て、作成した動画教材を洗練することを目的とした。

【方法】動画作成アプリ「Vyond」を使用し、正しい月経周期、月経周期の数え方、月経周期の4つの時期、月経が遅れる理由、通院時の疑問、通院時に聞かれること、月経不順について相談できる機関の内容を約3分の動画にまとめ作成した。機縁法にて、性教育を実施している産婦人科医、看護師・助産師、養護教諭3名ずつ、大学生3名に動画教材(案)を視聴してもらい、教材のみやすさ、教材全体、教材内容のわかりやすさ、教材内容の正確性の4つの項目にて評価を得た。研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会にて審査を受け、承認を得て実施した。(承認番号:21-A073)

【結果】専門家及び大学生合計12名から回答があった。教材のみやすさは、文字の大きさ、色、図のわかりやすさは肯定的な評価であったが、教材の速さについては約6割が否定的な評価であった。教材全体の評価について、教材に興味をもてたか、友人・知人に紹介したいか、役に立つかの質問には「非常にそう思う」「そう思う」が6割以上であった。しかし、教材は高校生に適切だと思うかについては専門家の4割が「ややそう思わない」と評価していた。教材のわかりやすさは、月経周期の説明、月経が遅れる理由、通院に対して月経不順だけで通院してよいのかという不安、月経不順についての相談場所は6割以上が適切との評価であったが、男性医師の診察に抵抗がある場合の対応、内診台に乗ることに抵抗がある場合の対応は「ややそう思わない」「そう思わない」が4割以上を占めていた。教材の正確性は、男性医師の診察に抵抗がある場合の対応は4割以上が「ややそう思わない」と否定的な評価であったが、その他の項目は「非常にそう思う」「そう思う」が6割以上で肯定的な評価だった。

【結論】教材作成時の工夫点が教材のみやすさに繋がり、有用性のある動画教材を作成できた。しかし今後、動画教材の速度を遅くしたり、対象者に合わせた説明に修正していく必要がある。